

※「(1) 審議の内容」における記号の説明

「○」…委員の発言

「◎」…委員の質問に対する事務局の回答

第3回小中学校特別教室空調整備事業における 浜松市 PFI 等審査委員会会議録

1 開催日時 令和6年8月22日(木) 午後2時40分から午後4時40分

2 開催場所 イーステージ浜松オフィス棟6階教育委員会室

3 出席状況

出席委員	奥宮 正哉(名古屋産業科学研究所 上席研究員)
	鍋島 佑基(静岡理工科大学 准教授)
	永野 涼子(静岡県弁護士会 弁護士)
	奥家 章夫(浜松市学校教育部長)
	須部 保之(浜松市財務部次長)
事務局	山本課長、鈴木課長補佐、稲垣グループ長、増田主任

4 傍聴者 0人

5 議題、内容及び結果 審議の内容

(1) 開会

本会議は、特定の者に不当な利益または不利益を与えると認められる情報を含むため、「浜松市附属機関の会議の公開に関する要綱」第3条第1項に基づき、会議を非公開にする旨を説明し、了承される。

(2) 事務局説明

前回委員会振り返りと今回委員会の議事内容を説明。

(質問・意見) なし

(3) 報告事項

(事務局)

6月24日から28日までの期間で参加申込を受け付け、1事業者から提出があった。事務局で入札参加資格審査を行い、入札参加資格を満たしていることを確認し、結果を通知した。

その後、参加表明書の提出があった 1 事業者から、提案書の提出があった。事務局にて基礎審査を行い、基礎審査基準を満たしていることを確認した。

(4) 確認事項

提案書の審査方法・審査委員会の進め方を説明。

(質問・意見) なし

(5) 審議の内容

(事務局)

委員 5 名全員が会議に参加しているため、本会議は「浜松市附属機関の会議の公開に関する要綱」に基づき成立しているとする。議事の確認は、奥宮委員長と奥家副委員長にお願いする。

議事 1 事業者提案内容、事前質問事項への回答の確認

議事 2 仮評価についての意見交換

(意見)

○資料 6 の【疑問点 (委員会では他の委員に確認したい事項)】の欄について、順に確認する。

○資料 6 の 1 (2): 緊急時の対応について、SPC の組織体制図で命令系統が記載されているが、時系列での対応の明記がなかった。災害発生時のシナリオを求めるべきか確認したい。市の意向はあるか。

◎ご指摘いただいたとおり、災害発生時の対応として一時対応方法や連絡体制など、事業者と市とで共有した方がよいと考える。質問事項に記載し、事業者の意向を確認したい。書面で確認するか、ヒアリング時に確認するかどちらがよいか。

○書面にて、連絡系統やタイムラインの提案や考え方が示されればよいと考える。

◎事業者の提案書 (表 8-5-2) に、不具合発生時の対応は記載があるが、この図が具体化されたものというイメージか。

○そうである。時系列を踏まえた具体的な提案が確認できるとよい。

○事業者の提案書 (様式 6-5) に、緊急マニュアルを整備するとの記載がある。しかし、緊急マニュアルの具体的な内容が書かれておらず、またリスク管理委員会が管理するリスクも物価変動等しか記載されておらず、どの程度の種類のリスクを想定しているかがわからない。緊急マニュアルの具体的な内容を示してもらい、その中で緊急時の対応についても確認ができればよいのではと考える。

○リスク管理の部分で、具体性を持たせた提案を要求することでよいと考える。

○資料 6 の 1 (2): 資金収支計画について、ライフサイクルコストは施工費が 70% を占めているが、妥当か。

◎事業費積算時も、設計・施工と維持管理で分けると、設計・施工が事業費全体の 87% 程度であった。事業者の提案も、設計・施工で 85% 程度であり、妥当である

と考えている。

○資料6の1(3): GHP と EHP の使い方について、事務局からの質問への回答で、1つの学校内で使い分けるわけではないとのことであった。その回答であると、ベストミックスという提案には違和感がある。

◎熱源比率と、学校ごとで使い分けるという回答のみを確認したところである。

○ヒアリング時に確認した方がよいと考える。

◎事務局からの質問にも回答がなかったため、事務局としても、GHP と EHP の設定の根拠は確認したいと考える。

○ヒアリング時に鍋島先生から確認いただきたい。

○提案書の提案内容と事務局からの質問への回答に齟齬があると思う。ベストミックスというと、GHP と EHP を負荷の程度で切り替えることで利用料金を削減することや、インフラを2系統とすることで有事の際に代替できるといった書き方になっているべきである。

○普通教室と同じものを導入することは、ほぼ決まっているかと思うが、普通教室に合わせるという提案であれば、ベストミックスは何か、と疑問である。

○「インフラに応じて変える」という意図かと思う。

○それはベストミックスなのか。普通教室と同じものを導入することを想定しているのか。

◎事務局として、普通教室と同じものになる可能性が高いとは考えるが、コストの差等のメリットを確認できれば評価できると考えている。

○ヒアリングで具体的な考えを確認する。

○評価の方法はEが前提で加点するという考えだとすると、普通教室に合わせるという提案であれば、Eになるということかと思うが、どうか。

◎そう考える。

○全体的な評価の方針として、私はEをベースに、実現可能性や企業としての狙いが見える部分を加点しているところである。人材育成について、地域や周辺の方を雇用するという提案があるが、事業の成り行き上当然のことと考える。エンジニアとしてどんな人材を育成するのかなどが提案ではないか。中途採用に絞り経験者を即戦力として使うことも考えられるが、新卒も中途も雇うとの提案であり、なにがあれば評価できるのか疑問である。市としての方針があるか。

○浜松市内企業であれば、市外と比べて地域貢献になるため、一定評価したが、ただ市内の人材を活用すればよいという提案にも見える。事業期間はある程度あるが、事業終了後の対応も懸念される。

○この事業として、かかる費用をどの程度地域貢献できているのかが、第一の評価の視点である。今後の持続性は懸念されるところはあるが、地域経済発展に貢献できているかが第一かと思う。ただし、「準市内」という言葉の意味はわからないところであり、事業者への質問事項としている。

◎PFI 事業であるため、設計・施工から維持管理まで全事業期間でノウハウを持った

企業が関わってほしい、また緊急時にすぐ駆け付けられるという点で、市内に本店や支店がある企業は、評価は高いと考える。人材育成としても市内業者を使って経済成長を図ることを考えると必要と考える。

○維持管理をメインに担当するのは市内企業か。

◎「準市内」の位置づけは、本社は市外にあり、営業所や支店が市内にある企業を示している。

○法人税等の貢献がメリットか。

◎どちらかというとすぐに駆け付けられるという点を重視している。

○人材育成、雇用促進については、市として要求しているものではないので、一般的に、雇用創出が一定程度発生することが期待できるのであれば、その点を評価する。地域の雇用創出は、基本的な PFI としてのメリットでもあり、この点があれば、一定評価（B や C の評価）ということではないか。エンジニアとしてどんな人材育成を行うかまでの提案があれば、A 評価なのではないか。一方で、より長期に渡って雇用される維持管理に係る企業の比率が、準市内 75%があることは、支店でどの程度雇用されるのかは懸念される。施工は 1～2 年であることから、短期雇用が増えるだけで、雇用創出のメリットが高いのか。

○資本比率が 31%であるのに、維持管理業務 75%を担うことでよいのかが懸念される。

◎事業費全体でみると、設計・施工が 85%、維持管理が 15%であるため、それを踏まえると問題ないのではないかと考えている。

○この点については、事業費がいかに地域に貢献されているかが評価の視点かと考える。

◎設計・施工に大きな金額がかかるため、それが地域に貢献される。また、維持管理についても、すぐに対応できることは市としても希望しているため、地元採用が増えノウハウが蓄積されることは期待できると考える。

○施工費も代表企業だけでなく、協力企業に配布されるかは確認が必要である。

○資料 6 の 2（2）：GW について、学校が休みの場合、教員は働いていないのか。休日対応が必要になることが懸念される。

◎GW は祝日のため学校は休みである。

○休日対応しなければならない期間の確認が必要である。

◎その点については、事業者の提案書（様式 7-3）にて、「休日作業は、学校より鍵を借りて事業者のみで対応する」との提案がされている。

○資料 6 の 2（4）：集中リモコンについて、操作マニュアルを作成するとのことであるが、現場の教員が使いこなすのは難しいと考える。職員室で集中管理してしまうと、各教室での温度管理ができないことがデメリットになる可能性もある。マニュアルを作成するのであれば、どのようにエアコンを活用するかを提示しなければ意味がない。また、教員は活動が激しいので体感温度が高くなる可能性があり、現場の教員が温度設定をすると、生徒が寒く感じる可能性もある。誰に対して快適を

提供するののかの考え方も含めてマニュアル化すべきである。

○集中管理がされる前提で現場でも温度調整できるとか、ある程度の時間になれば電源が切れるといった内容が教員に伝えられているのか。

◎普通教室は職員室で集中管理する形で、教室では温度を変えられない設定としている。陽が集中的に当たる部分への対応はできないが、最上階等は能力が高いなど、設計段階で考慮されている。電源のオン・オフは教室で変更可であり、全館オフは集中リモコンで設定可能としている。

○室温ベースで一定にすることは、負荷計算してもそんなに難しいことではない。あるいは、センサーの値をみれば、初年度で室温を確認して、高いところは次年度から設定温度を下げるなどの対応があればよい。マニュアルへの記載やモニタリングがなされればよい。

◎そう考える。

○資料 6 の 2 (7) : 室外機と室内機の組合せについて、メンテナンス時に冷媒配管の距離を短くして効率よくするとの提案があるが、負荷が高い部屋同士が同じ室外機に接続されるとコスト面で非効率である。全体的な負荷バランスを考慮した提案がなされているのか懸念される。また、設備に不具合があった場合、系統と部屋の管理がズレていると、教員や事務員で対応するのは難しい。配管ラインの色分けや、室外機の区別（どこがつながっているか）が見える化されるなどの提案があれば、よりフレキシビリティな案になるのではないか。

○どういう意図で配管を設定したか、それがどのように記録として残されるかを確認したい。

◎室内機に対する室外機がどこの場所にあるか、事務局としても懸念している。長期中で使用するものであるので、確認できるものが必要と考える。

○要求することでよいかと思う。また、同じ系統にして欲しくないという要望も想定される。これは事前質問とすることでよいか。

◎事前質問として整理し、回答をもらう形としたい。

○維持管理の項目について、これまでの議論にあったマニュアルの話は、維持管理に大きく関わるものであり、最終的には維持管理に集約していくことになると思う。

議事 3 事業者への追加質問事項の整理

(質問)

○書面で確認する事項は、いつ回答を確認できるのか。

◎9月3日に事業者から受領する予定であるため、9月3日以降に全委員へ送付する。

○事業者からの回答によって評価を見直すことになるが、回答の内容が妥当であるかを事前に委員会で確認する手順が必要である。ヒアリングの後に確認することになるか。

◎ヒアリングの前に 15 分間ほど時間を設けているため、回答をご確認いただいたの

ちに追加質問等をご協議いただきたい。

○資料7の「ヒアリング時質問」としている項目は、ヒアリング時に各委員から質問していただく。書面で回答いただく内容も、場合によっては不足する部分をヒアリングにて追加で確認いただく。

(意見)

○資料6について、提案書に書かれているが加点できない程度の提案もあり、確認が必要と考える。また、資料7の N0.14 の質問について、事前質問事項の回答を参照しているが、本日の議論を踏まえると質問の意図が違うため、質問内容を精査して再度質問する必要がある。資料7は、本日の議論を踏まえて追加・変更していただきたい。

○資料6の内容も踏まえて、適宜、修正すること。

○全体を通してご意見があるか。

○質問事項を追加したい。事業者の提案書(表6-3-4)にて、事業推進本部会と維持管理部会の開催は適宜とされている。どのような議題や頻度で実施されるのかを確認いただきたい。

◎資料4の事前質問事項で、維持管理部会の頻度としては、四半期毎との回答があった。

○開催の条件、議題については確認できていないので、質問を追加していただく。

◎次回委員会は、9月18日13時40分から開催する。

審議の結果

議事1及び議事2及び議事3 事業者への追加質問事項の整理(資料7)は審議内容を踏まえ修正の上、各委員へ確認後、事務局から事業者へ質問依頼を行う。

- 6 会議資料の名称 基礎審査チェックリスト、提案書の審査方法・審査委員会の進め方、提案概要説明書、事前質問事項への回答、性能審査項目に係る評価集計表(仮評価)、性能審査項目に係る評価点・評価理由・疑問点一覧表(仮評価)、事業者への追加質問事項、個別評価表(第3回委員会後の仮評価用)

- 7 発言内容記録方法 文字 / 録画 / 録音

- 8 会議録署名人 奥宮正哉 奥家章夫